

二十歳の記念式典

1月4日、「高千穂町二十歳の記念式典」が町自然休養村管理センターで行われ、今年度20歳を迎える109人（対象者137人）が出席しました。

式典では、国歌を斉唱した後、甲斐町長が、出席者代表のシテイ・メラニさんに二十歳の証、興梠史慎さんに記念品を手渡しました。

甲斐町長は「これからの人生において、選択や決断を自分で行わなければならないことやさまざまな困難に突き当たることもあるので、決して臆することなく、さまざまな可能性を模索して若い力で乗り切ってほしい。今後は、みなさんのふるさとである高千穂町の価値を守り、さらに磨き上げ、町民が自信と誇りを胸に住んでよかったと未来に希望を持ったまちづくり、誇れるふるさとづくりを行っていくので、みなさんがいつの日か夢や希望を求める舞台として高千穂町を選択してもらえるところを期待します」と式辞を述べました。

坂本弘明町議会議長と佐藤雅洋県議会議員による祝辞に続き、出席者を代

表して下川由奈さんが、今日まで支えてくれた方々への感謝の言葉とともに「誰かの助けになりたい」という思いから、医療機関への進路を考えていたが、コロナ禍で実習ができずに進路を変更。できるだけ、命に近い現場として西臼杵広域消防本部に実習にいったことで、命の最前線で働く消防士になろうと決心した。現在は、西臼杵で消防士として勤務。とてもやりがいを感じ、日々この町と住民を思い業務に向き合っており、この仕事を選んで良かったと心から思う。まだまだ未熟ではあるが、これから社会人として自覚と責任を持ち、この町に恩返ししていきたい」と謝辞を述べました。

二十歳の意見発表として、清家彩来さんが「大阪で生まれ、剣道をするため、父を始め姉3人とも中学・高校の6年間を高千穂でお世話になった。高千穂は、町民のみなさんがとても親切で温かく、友人にも支えられ、充実した6年間を過ごし、剣道以外にも多くのことを学び経験した。現在は、大学生として剣道を続け、思い描いていた通りにならず挫折そうになる。そんな時、高千穂で過ごした日々を振り返り、踏ん張らなければという気持ちが沸き、中学で高千穂に送り出してくれた両親へ

の感謝の気持ちとともに期待に届いていきたいと思う。これから社会に出るにあたり、もっと成長して社会人としての責任を果たし、社会に貢献できるような人間になりたい。それと同時に、高千穂町に恩返しができるよう、自身を磨き努力し続け、この町の員として、日本を目指して頑張っていきたい」と発表。

続いて、戸高壮太さんが「これまで育ててくれた家族や支えてくれた方々に感謝し、同級生と久しぶりに再会できた喜びを胸に刻みたいと思う。現在は、海上保安官として北海道で勤務し、巡視船で領海警備など多岐にわたる業務を行っている。巡視船勤務の場合、1年の3分の1は海上にいたことから、時々ふと高千穂の山々を懐かしく思い、高千穂を離れてから、改めてかけがえのない大切な故郷だと感じた。日本の国益と国民を守る仕事として使命を全うしていきたい。みなさん、縁あって同じ年度に生まれた同級生や仲間として、いつまでも絆を大切にしよう。そして、故郷・高千穂を誇り愛する気持ちを忘れずに、これから大きく広がっていく未来に向けて歩んで行こう」と発表しました。

